

# 皇學館みらい対話団

- ・第13回セッション実施予定
- ・打ち合わせ
- ・打ち合わせ
- ・皇學館中学校大学訪問でのプレゼンテーション
- ・第12回対話セッション「理想の「まち」創り」
- ・打ち合わせ
- ・第11回対話セッション「この先百年続く農業をデザインする」
- ・やまだみらい対話団キックオフイベント
- ・打ち合わせ
- ・打ち合わせ
- ・第10回対話セッション「踏み出そうキャリアパス」
- ・明倫まちづくり協議会さんとのワークショップ(まちなか研究室)
- ・第9回対話セッション「オトナと僕ら〜あのころのミライ」

2017

5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

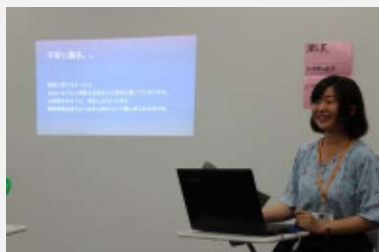
## ◆今年度の活動を振り返って（成果と課題）

対話団が重要視しているのは、対話であり、多様性です。トム・ケリーの言葉があります。「いかなる個人よりも、全員のほうが賢い」という言葉。一人で出来ることは限られています。様々な力を持った人が集まることで、一人では考え付かなかつたり、出来なかったことが出来るようになります。この世界には様々な考え方をしている人がいます。一つの考え方に、ある人は正しいといっても、またある人はそれが正しくないともあります。対話団は、色々な価値を認め合おうとするのが対話だと考えています。また議論と対話が比較されることがありますが、議論は3つあるアイデアの中の1つを最も優れたアイデアとして、他の2つのアイデアは使われなくなってしまいます。対話は3つのアイデアがあれば、どの考え方にも、大切な要素があるという風に考え、それぞれのよい部分を使ってさらに良いものを作ろうとする考え方です。

本年度後半での活動として大きな活動としては、第11回(H29/10/20)/第12回(H29/12/1)の対話セッションを行ったこと、やまだみらい対話団のキックオフイベント(H29/9/1)にファシリテーターとして招待されたことの二つが大きな活動でした。また週に1回のMTGも行ってきました。

第11回の対話セッションのテーマは、「この先100年続く農業をデザインする」でした。担当学生の問題意識として、現在の農業は持続可能性が少ないのではとの危機意識がありました。ということから、地域で続いていく農業はどんな姿なのかを参加者の皆様と考えあいました。セッションの後の課題には、担当学生の伝えたいことが曖昧になってしまう場面がいくつかあったことでした。もっと深く準備し、何を参加者の方に伝えたいのかを明確にするのに繋がる意識を得ることが出来ました。

第12回対話セッションのテーマは、「理想の「まち」創り」でした。担当学生の問題意識として、本人のキャリアパスを考えたとき、町の人の役に立てる仕事がしたいとのことで、個人のどんな働き方や、行動が「まち」のためになるのか地域の人に聞いてみたいというものでした。



担当教員：池山 敦(教育開発センター)

